

週報



2006～2007 年度

2006年12月25日第1813回 本年度第21回

国際ロータリー
第2560地区

SanjoMinamiRotaryClub

【出席率】 会員62名中44名

【先々週の出席率】 87.93%

【先週のメイクアップ】

12/19 三条北RCへ

星野健司君

山村 登君

馬場茂夫君

佐藤秀夫君

大久保秀男君

吉井正孝君

船久保孝志君

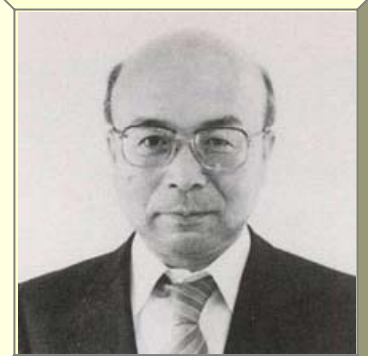
鈴木圀彦君

鈴木圀彦君

西巻克郎君

12/20 三条RCへ

2006～07年度
クラブ会報特別企画



あの人 あの時
野島 廣一郎 君

会長挨拶

馬場 一敏 会長



挨拶致します。

今年最後の卓話、大久保先生よろしくお願い致します。

早いものでもう半年終わります。年度初めの「クラブ・フォーラム」、開会点鐘も戸惑ったものです。弱く打つと音が出ないのかと不安になりました。今でも「初め」と「終わり」はいつも緊張します。

当クラブ行事では、納涼例会（7/31）、三条東クラブ認証状伝達式への出席（8/26）に続き、10月2日のガバナー公式訪問と懇親会、同じ週10月7日、8日のRI会長代理歓迎晩餐会と地区大会、何かと忙しい日が続きました。その後「秋の味覚例会」、12月18日の「忘年家族会」と楽しい夜の例会もありました。

毎週の挨拶にも困り、休会が続くホットします。この気持ちは今も同じです。今まで皆様のご協力により楽しみながら、（本音は・・・？なかなかそんな心境にはなれませんが）やってまいりました。

国際ロータリー会長
第2560地区ガバナー
第4分区分アシスタントガバナー
会長 馬場 一敏
三条南ロータリー事務局

ウィリアム ビル ボイド [ニュージーランド]
中 條 耕 二 [三条北]
桑 原 寛 治 [加 茂]
幹 事 田 代 徳太郎 SAA 広 岡 豊 樹
〒955-8666 三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店内
TEL 0256-35-3477 Fax 0256-32-7095

E-mail info@sanjo-minami.jp URL <http://www.sanjo-minami.jp>

本日、理事会にて菫澤地区幹事ノミニーより、ガバナーエレクトになり地区資金が提供される平成19年7月中旬頃までの期間、ガバナーノミニー活動資金借入れの申出があり、本日承認されました。幸い当クラブは、40周年の積立金がありますので、その一部金300万円を12月中に提供することになりました。ご報告致します。馬場信彦ガバナーノミニーには心置きなく準備していただき、さすが三条南クラブと言われるようにしていただきたいと思ひます。

最後に会員皆様にも良い年を迎えられることを祈り、来年も宜しくお祈ひします。

幹事報告

田代 徳太郎 幹事

- 三条北RCより FAX番号変更のお知らせ
12月23日より **新FAX番号 0256-32-7320**
※ 電話番号、メールアドレスは従来どおり

委員会報告

◎親睦委員会 岡村一男委員長

新年会 及び 記念俳句会 俳句募集のご案内

新年会 と き・・・平成19年 1月29日(月) PM6:30～
ところ・・・松木屋
会 費・・・2,000円
取消し・・・当日AM10:00までにご連絡下さい。それ以降、会費ご負担いただきます。

記念俳句会 季題・・・「冬の川」 「福寿草」 「初風呂」 お一人 一句 以上 三句まで
締め切り・・・1月22日(月) 例会時まで事務局長までご提出下さい。

* 新年会にて、優秀作品を発表し、記念品をお贈り致します。多くの俳句が寄せられますことを、多くの皆様の新年会出席をお持ち申し上げます。

1月のお祝い

会員誕生

1日・・・馬場信彦君	1日・・・飯山勝義君	2日・・・坪井正康君
3日・・・平松修之君	7日・・・草野恒輔君	8日・・・丸田肇一君
11日・・・佐藤 譲君	11日・・・田中正佐久君	14日・・・佐藤秀夫君
25日・・・吉田 衛君		

夫人誕生

1日・・・吉田スミエ(秀治)さん	2日・・・荒澤政子(威彦)さん
2日・・・田中秀幸(悌司)さん	3日・・・馬場淑子(信彦)さん
4日・・・馬場和子(茂夫)さん	7日・・・佐藤政子(栄祐)さん
9日・・・渡邊ノリ(光郎)さん	10日・・・永桶シイ(栄資)さん
11日・・・天田敏子(匡)さん	23日・・・星野敏江(健司)さん



* * * おめでとうございます * * *

一週間を繰り返り・・・心とほほえましいお話をBOXに

ニコニコボックス

～ 12月25日 25,000円 今年度累計 550,000円 ～

- 馬場（一）君 ①大久保さん、卓話ご苦労さまです。
②本年最後の例会です。来年も宜しく願います。
- 田代君 大久保さんの本日の卓話楽しみにしています。昔、山古志で見たことがあります。
- 相田君 この度、済生会三条病院入院に対して、去る12月15日、馬場会長、田代幹事よりわざわざご足労、お見舞いをいただき有難く厚く御礼申し上げます。
- 永桶君 結婚記念のお花を有難うございました。
- 吉田（秀）君 先週は珍しいものを見せていただきました。実は生の芝居を見たのは初めてなのです。
- 鈴木（圀）君 吉田秀治さんご夫妻の「商店街・海外旅行」参加有難うございました。お蔭様で無事に行って来ました。
- 野中君 メリークリスマス！ 今年最後の例会です。マクドナルド・ナゲットも一緒に！！
- 馬場（信）君 H18年、まもなく終わろうとしています。何かとお世話になりました。来年も宜しく願います。本日の卓話、大久保先生に期待して。
- 木原君、齋藤君、坂本君、佐々木君、野島君 大久保さん、本日の卓話ご苦労様です。楽しみにしています。
- 安達君 一年間、お世話になりました。皆様良いお年をお迎え下さい。
- 馬場（茂）君 役員の皆様、今年は行事も多く大変ご苦労様でした。来年も宜しく願い致します。
- 田中（久）君 今年もあとわずか、どうか皆さん良いお年を。
- 坪井君 早いもので今年も終わりです。一年間お世話になりました。良いお年をお迎え下さい。来年もよろしく。
- 石山君、大溪君、佐藤（嘉）君、田中（悌）君 BOXに協力致します。
- 丸山（徹）君 久しぶりのBOX担当です。大久保さん、卓話ご苦労様です。

卓話

『「南総里見八犬伝」より「山古志の牛の角突き」について』

大久保 秀男 会員

1. 本日のテーマとした理由、背景



最初に、なぜ、このテーマを選んだかという背景、理由をお話します。

私は、昭和20年に小学校（当時は国民学校、尋常小学校）に入学しました。昭和20年4月に入学、その年の8月に終戦を迎えたという年次です。

私は、この地域（旧三条市全域）で昭和20年に小学校に入学した者、すなわち、昭和13年遅生まれと、昭和14年早生まれの者でつくっている「親睦会」があり、その会に入れてもらっております。会の名称は、昭和20年に小学校に入学したということに因んで「二十年会（はたちの会）」と称しております。会ができてから今年が29年目という古い会です。

会員は、現在ちょうど60名で、毎月例会を開いております。例会では、最初の1時間程はいろいろな所から講師を招いて講話をお聞きしたりする勉強会です。

例えば、①救急隊員から救急処置の技術指導を受けたり、②さんしん経済研究所所長さんからこの地域の経済状況の講話をお聞きしたり、あるいは、③市内のお医者さんから、心臓疾患、脳の病気、糖尿病、メタボリックシンドローム等健康に関する講話等をお聞きしたりと、真面目に勉強会を行って、その後はお酒の出た懇親会となります。

さて、昨年(2020年)の11月、この「二十年会」で、中越地震の復興に努力、ようやく立ち上がりつつある山古志を(気持ちの上で)支援しようと、再開された「山古志の牛の角突き」を見に行きました。場所は、山古志では開催できず、長岡市東山、東山ファミリーランドでの特設会場でした。

その折に、会員の中から、「山古志の牛の角突き」と言えば、「南総里見八犬伝」に記述されていることは聞くけれども、我が会員で、この「南総里見八犬伝」のこの部分だけでもよいが、読んだことのある会員はどの位いるのか、ということが話題になりました。その結果、読んだことのある会員が意外に少ないことから、幹事が資料を用意するから各自それを読んでから「山古志の牛の角突き」を見学しようということになりました。読んでみますと、当時の人々の生活状況、風俗、習慣を知ることができ、大変興味深く思いましたので、その時の資料に基づいてお話ししようと考えた次第です。

2. 「山古志の牛の角突き」の件が、「南総里見八犬伝」に記載された背景、理由

それは、「北越雪譜」や「秋山紀行」を著した鈴木牧之との関わりが深いのです。

資料によりますと、1820年(文政3年、いまから約190年位前)に滝沢馬琴の依頼によって二十村に牛の角突きを見物し、画図、解説を送ったとされています。その後、滝沢馬琴が、1827年(文政10年、資料を貰ってから7年後)に、「里見八犬伝」第7章卷之五に「二十村闘牛図」を載せたとされております。このことについて、滝沢馬琴自らが断り書きを記しております。

この「山古志の牛の角突き」の件は、本当は鈴木牧之から発行を依頼されていた「北越雪譜」に載せるべくものであるが、毎歳筆研繁多(まいさいひっけんはんだ)で発行することができない。鈴木牧之の希望を無にしては申し訳ないので、ここに載せた、と記述しております。

なお、「北越雪譜」は山東京山・京水親子によって編集され、1837年(天保7年)初編が売り出されました。

鈴木牧之の特徴的なことをお話します。

鈴木牧之の著作は単なる机上の創作ばかりでなく、実際に自分で見分し、足で歩いてじかに感じ取った体験を元に筆を起こしている、すなわち実録性が特色であると言われております。従って、当時の風俗、習慣など人々の暮らしぶりが詳細に記述されていて、民族的にも貴重な著書が多いと評価されております。

この鈴木牧之の特徴が、「里見八犬伝」の「山古志の牛の角突き」の場面によく表れているように思います。

3. 「里見八犬伝」の「山古志の牛の角突き」のあらすじ

- ・客をとどめて次団太 牛合せを誇る

小千谷の旅籠の主 次団太が、泊り客の犬田小文吾に、古志郡二十村に牛合わせの珍しい神事があるから逗留を延ばして見て行けと(唾を飛ばすほど)熱心に勧める。

この勧める時の話の中に、古志郡の地域のこと、闘牛に出そうとする人の牛の世話のこと、実際に闘牛を取り仕切る力士(勢子)のこと、見物人のこと、闘牛会場の情景などを詳細に弁じてすすめています。

- ・闘牛が行われる当日のこと

出立するときの出で立ち、会場までの道中の情景、会場の様子、会場周辺の自然の描写、闘牛の有様を克明に記述し、「實は是、北国の中の無比名物、みくにの内の一大奇観なり」と驚き、感じたことが記述されています。特に、終わりの方で、大関同士の勇壮な牛の角突きの様子が、迫力ある描写で綴られていると感じました。(配布資料をご参照下さい)

「里見八犬伝」の「山古志の牛の角突き」は有名ですから、既にお読みになった方は大勢いらっしゃると思いますが、まだの方は資料をお読みいただけたら幸いです。

最後に、「山古志の牛の角突き」は、重要無形民族文化財に指定されておりますが、伝統ある文化財、後継者の問題もあり大変ですが、未永く維持、保存していただきたいものと思います。

四つのテスト

一言行はこれに照らしてから

I 真実か どうか

III 好意と友情を深めるか

II みんなに公平か

IV みんなのためになるか どうか